【参考様式】指導契約書

指　導　契　約　書

|  |
| --- |
| 収　入印　紙 |

　○○○○（以下「甲」という。）と△△△△（以下「乙」という。）は、次のとおり指導契約を締結する。

第１条　指導内容

乙は、甲が導入する、「□□権（技術）について」に関して、甲の補助事業実施場所に出向き、次の３項目について指導を行うとともに、必要に応じて情報の提供、助言等を行うものとする。

　１．□□権（技術）の導入方法

　２． ・・・

　３． ・・・

第２条　指導期間

指導期間は、２０○○年○月○日から２０○○年○月○日までの間とする。

第３条　指導日数及び指導料

指導日数及び指導料は、次のとおりとし、毎月末日にその月の指導日数に相当する指導料を、甲は乙の指定する銀行口座に振り込むものとする。

　１．延べ指導日数　　　　　　　　　○○日

　２．指導料　　　　　　　　　　金　 ○○, ○○○　円　（税込み）

　３．１日当たりの指導料　　　　金　 ○○, ○○○　円　（税込み）

第４条　指導報告書

乙は、甲に対する技術導入の指導内容の概要を報告書として提出する。

第５条　反社会的勢力の排除

　甲及び乙は、自ら（主要な出資者、役員、及びそれに準ずる者を含む。）が暴力団、暴力団員・準構成員、暴力団関係企業、特殊知能暴力集団の関係者その他公益に反する行為をなす者(以下「反社会的勢力」という。) ではないこと、過去５年間もそうでなかったこと及び反社会的勢力と資金提供、便宜供与その他いかなる関係も有しないことを表明し、かつ将来にわたっても反社会的勢力とのいかなる関係も有しないことを誓約する。

２　注文者及び受注者は、自ら又は第三者を利用して、暴力的な要求行為、法的な責任を超えた不当な要求行為、取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為、風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて相手方の信用を毀損し、又は相手方の業務を妨害する行為、及びその他これらに準ずる行為を行わないことを誓約する。

３　注文者又は受注者は、相手方について第１項の表明に反することが判明した場合又は前２項の誓約に反した場合、何らの催告を要せず直ちに本契約を解除できるものとする。なお、この解除によって生じた損害については、解除当事者は責任を負わないものとする。

４　前項に基づき本契約を解除した場合、解除当事者は、既に発生している金銭債務を除き、本契約解除後は本契約上の一切の義務を免れるものとする。

第６条　その他

本契約書に定めのない事項については、相互信頼の原則に基づき、甲、乙協議の上決定するものとする。

以上の契約を証するため本書２通を作成し、署名捺印のうえ甲、乙、各１通を保管するものとする。

　　　　２０○○年○月○日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　甲　　住所 ○○ ○○

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　事業者名 ○○○○

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表取締役 ○○　○○　　㊞

　　　　　　　　　　　　　　　　　　乙　　住所 ○○ ○○

事業者名 △△　△△ 　㊞

※　大学等に別途契約書の雛形等が有り、そちらを使用しなければならない場合は、事前に事務局担当者へ相談してください。

※　指導報告書は、【参考様式】専門家業務報告書に倣って作成してください。